

アーカイブ Data Report

NO. 22

(2020年7月13日)

〒500-8813 岐阜県岐阜市明德町10番地 杉山ビル5F
E-mail: shikaku@npo-nak.com URL: https://npo-nak.com

木田宏オーラル・ヒストリーと資料の保存 ～話の依頼と背景資料の重要性～

後藤 忠彦、谷 里佐 (岐阜女子大学)、
興戸 律子 (岐阜大学)、加納 豊子 (元岐阜大学)

オーラル・ヒストリーのデジタルアーカイブ化が進み、新しい伝承の方法として各分野で検討がされている。単に話の記録と関係映像等を付加したデジタルアーカイブはあるが、可能であれば、オーラル・ヒストリーの背景になる資料(実物)を保存しておくべきである。また、オーラル・ヒストリーは、多くの場合、本人の都合や社会的な背景により話を聞くまでに、何回もの依頼が必要である。

その一例として、木田宏先生のオーラル・ヒストリーのデジタルアーカイブ化について説明する。(昭和58年～平成16年まで要した。)

(注) 木田宏先生は大正11年2月に広島県で生まれ(もとの出身は和歌山県)、昭和21年7月に復員、昭和21年8月に文部省教科書局(米国関係者と教科書発行で交渉を担当)、30年には、教育委員会制度の改正を担当課長として残すことに努力される。その後、学術局審議官、文部事務次官、国立教育研究所長、新国立劇場運営財団理事長等を歴任、平成17年6月永眠された。このように戦後の教育、ことに教科書、教育委員会制度、高等教育等に大きな功績を残された。

木田宏先生の著作資料の整理から始まる

木田宏先生から、昭和58年に学制百年記念事業として計画している我が国の教育情報センターを昭和48年頃から準備しているが、未だに動いていないので、ぜひ開発を手伝ってほしいかとの話が(後藤に)あった。

その会議の後に国立教育研究所の所長室で先生の著作リスト(450件ぐらい)を見せてくださった。その中に戦後の検定教科書制度について書かれた『新教育と教科書制度』があり、教育文献データベースにぜひ先生の著書等を記録してはどうかと話したところ「後藤さん、少し整理しないといけないですね」で終わった。

その2～3年後に、木田先生から「分野別の整理をどうすればよいか困っている」との話があり、

岐阜大学で本格的に木田宏教育資料の整理を始めた。(これが木田宏オーラル・ヒストリーのデジタルアーカイブ化の切っ掛けとなった。)

木田宏先生にオーラル・ヒストリーを何回も依頼

木田先生はお会いすると戦後の教育改革時代の話がされた。戦後の新教科書制度、学習指導要領、教育委員会制度の改正などの担当者として大変重要な活動をされており、これらの活動を記録する必要性を感じた。そこで、先生の教育資料を用いて当時の話をしてくださいとお願いした。ところが、

「官僚であった者は、自分の仕事を話して残さないのが慣習である」と言われた。

その後、何回も東京での会議の後によく東京倶楽部で食事に誘われ、戦後の教育の話がされた。あるとき、文献資料の整理に合わせて話をしてくださることになった。(諦めることなく説得することが必要である。)

オーラル・ヒストリーの記録……基礎となる資料の保存

第1回のお話が平成7年(1995年)11月29・30日に岐阜大学カリキュラム開発研究センターで始まった。それから平成10年(1998年)1月30日まで5回にわたり木田宏先生にお話いただき、これらの話を記録した。

その後、平成11年(1999年)からは、岐阜女子大学でオーラル・ヒストリー資料の整理を継続し、平成16年(2004年)6月22・23日に木田宏先生の話が終わった。(デジタルアーカイブ化)しかし、この木田宏オーラル・ヒストリーの背景になる多くの木田家にある図書資料の保管が問題になった。



木田先生のお話を聞く会にて(岐阜大学)

木田宏教育資料の保管(岐阜女子大学)

木田宏先生の昭和21年～平成16年までの資料および蔵書を全て岐阜女子大学に提供の申し出が、ご本人から平成16年にあった。図書、雑誌、資料等は約1万件に上った。谷と学生で、書庫の書棚に番号を付け、保存されている順序で箱に入れ岐阜へ送った。岐阜ではその番号ごとに目録化し図書館に保存した。



木田先生宅書庫(寄贈前)



収集された寄贈図書(約300箱)



附属図書館「木田文庫」